

## 東欧の旅

昨年夏、「地球の歩き方」とスマホを頼りに東欧を旅しました。知らない国を旅するのは楽しいものです。当たり前と思っている日本での日常を見直すきっかけにもなります。

ブルガリアの首都ソフィア。郊外の素朴な空港、古めかしい車両が走るメトロ、見たことのない黄土色の舗装タイル。共産党時代の威圧的な建物、玉ねぎ頭の教会や中世のレンガ積みの教会、装飾的な古くて美しい建物、なんか東欧に来たぞ。

街中にはトラムやトロリーバスが縦横無尽に走っていて、おびただしい系統に分かれています。古い街並みの狭い道でもうまく歩行者とトラムと車が共存していて、なんとも言えない魅力的な風景になっています。ちなみに運転手さんはTシャツに短パン、制服はいらないみたいです。

泊まったホテルは築100年級。古いまま最低限のメンテをしつつ使っている感じで、内扉の無いエレベーターに驚きもしましたが、飾られた竣工当時の栄華を誇る写真を見ているうちに、使い続けられていることへの敬意とでもいうのか、なんだか好きになっていきました。街では補修工事中の建物も多く見かけました。

この街で印象に残ったのは、広々とした公園がたくさんあること。そしてそこで、あらゆる世代の人々が思い思いに過ごしている穏やかな風景です。木陰のベンチに腰掛けてずっとおしゃべりしている人、中高生がたむろして悪いことをするでもなく楽しそうに過ごしている様子、首輪をしないで飼い主と散歩している犬たち。チェスをしている老人、自由に使っているゴーカートで遊ぶ幼児たち。スケボーのやや危険な若者にもそんなに誰も怒っていない。とても素朴で普通の日常の中には、「これをしてはいけません」があんまりなさそう。そのことに驚いている私の日常には「これはダメです」のサインがいっぱいありすぎることに気付かされます。

夏は夜9時ごろまで明るいので、屋外でゆっくり食事を楽しみます。せっかく綺麗な店内があるのに、中庭とか歩道とかで食べるのはちょっと変な感じが

しますが、みなさん絶対外が好きみたい。喫煙者が多いということもあるのかもしれませんが。30年前の日本の感じでこれにはちょっとびっくりしました。なので私はクリーンでクーラーの効いた室内も結構好きでした。

次に訪れた隣国ルーマニアまではプロペラ機で1時間。首都ブカレストはかつてバルカンの小パリと呼ばれたそうで中世の頃から栄えていたと俄か勉強。旧市街地にはフランスの影響を受けた装飾的で豪華な建物も多く、第2次世界大戦の戦火で受けたダメージを修復して美しい街並みを維持しようとしています。ブルガリアに比べて観光客もグッと増えました。

この国にはチャウシェスクという独裁者がいて、やがて民衆の蜂起によりベルリンの壁崩壊の同時期に公開処刑されたことを思い出しました。彼が君臨していた宮殿「国民の館」が丘の上に聳え立ち、今は観光名所になっています。ガイドの説明には、独裁政治を二度と繰り返さないというメッセージが込められていました。部屋数3,107、なんの工夫もない空間構成や大理石とシャンデリアの浪費、権力を形にすると美しくはならないと実感しました。

その後ブタペスト、ウィーン、クロアチアのドゥブロヴニクを巡って旅を終えました。旅の大きな反省は、3週間は長すぎたということ。毎日朝から晩まで歩き回っていた頃のようにはいきません。

川本 真澄



ブルガリア 国立文化宮殿前のユーージェン公園